

## はじめてのスリランカと組紐制作ワークショップ

スリランカの少女保護施設で組紐を教えてみないかと誘いがあったから、少しずつ準備を進めてきた。

### <準備>

2015年1月1日から本格的に準備を始める。

まず、テキスト作りから。

これまでは自分の頭のなかにおさめていたものをやさしく表現するとなると難しい。

相手が十代のそれも未就学に近い少女たちとなると、なおさらである。

20ほどのパターンを選んでテキストとすることにした。

出発までに、手順書、サンプル、材料の準備に直前まで追われる。



(サンプルとテキスト)

3月16日 20人分のテキストとサンプルはどうやら完成。

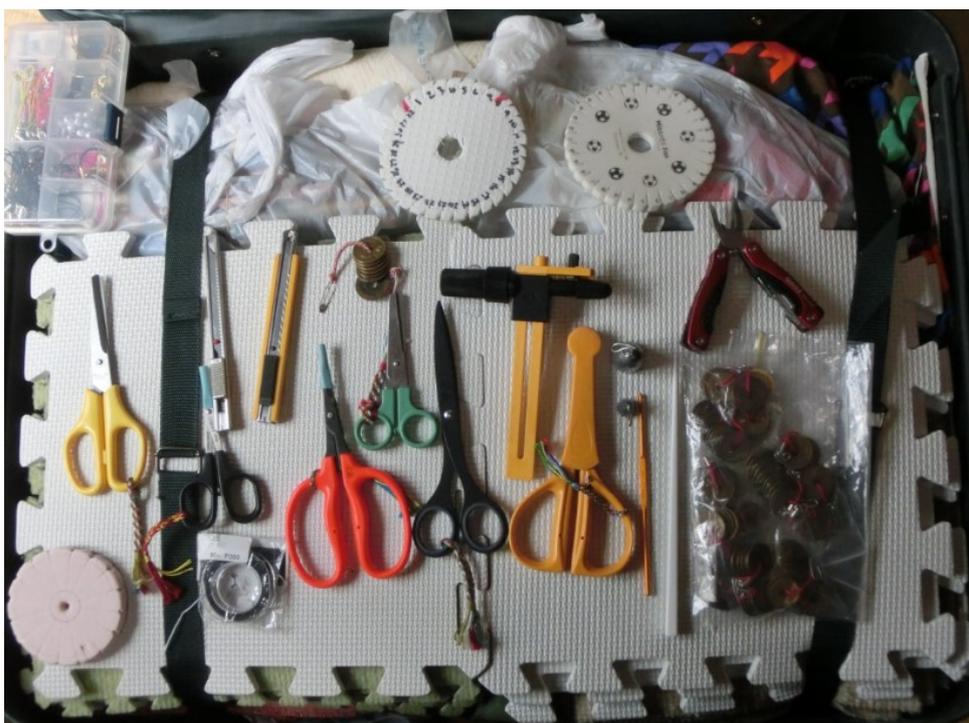
ここで問題は、ディスクと呼ぶ組紐づくりの道具をどうやって現地で作るかであった。

ホームセンターを回って素材を探すと、床に敷くマットの中で見えそうなものを見つけた。発泡プラスチックでできたクッションマットで、これならいけそう。値段もてごろである。ただし持って行くのかさばるのが欠点。

現地での資材調査は今後の課題とする。

次は材料となる糸の問題。今回は初回なので、こちらで購入した糸を持っていくしかない。主としてサマーヤーンと呼ばれている夏物手編み用の糸。それと刺繍糸。刺繍糸は色が豊富だが、値段が高いのが欠点。どちらも手芸店で購入。

最後に残る問題はストラップなどに加工する時の金具類の入手方法。今回は手芸店で買ったが、1本50円ととても高い。今後どうするかが成否の分かれ目となりそうだ。



(準備した道具類と材料 下敷きになっているのは Disk 素材のマット。他にはさみ 20 丁など。その下は糸がぎっしり)

### <スリランカへ>

2015 年 3 月 18 日 15:40 福岡発インチョン行大韓航空便乗り継ぎ、コロンボ行で出発。

19 日スリランカ時間 3 月 19 日 (木曜日) 午前四時にコロンボ到着。

WDC で予約したタクシーでそのままキャンディに向かう。

途中で朝食休憩。 初めてのスリランカ式朝食「ストリングホッパー」を食べる。

手でそのまま食べることは予定していたことなので、何の違和感もない。

午前 8 時過ぎに WDC のオフィスに到着。



代表のチャンドラティラカさんは会議で不在で秘書のパンチャリさんが対応。

紅茶をいただいて、空港からここまでの運賃を精算してタクシーは帰し、シェルターのある場所に WDC の車で案内してもらう。 運転手には 3 月 22 日 (日曜) の AM8:00 にホテルに来るように指示しておく。

WDC の車に同乗した 20 代と思われる女性はベルギーから来て、WDC のボランティア活動をしていて、現在 5 カ月になるという。 この日は WDC のスポーツイベントに手伝いに行くところだとのこと。 スリランカの言葉が覚えられないと笑っていた。

施設に到着して、管理部門にあいさつする。

## <ワークショップ>

予定では20人の少女を選抜しておくとのことだったが、実際は5人にしぼったとのこと。また、そのうち1名は病院にいらしているので、翌日合流すると説明された。

午前9時30分ごろから、セッション開始。

最初は組紐制作の道具となるディスクづくりから始める。

少女たちは英語ができないので、寮母役のフランセスさんが英語からシンハラ語に翻訳してくれる。

ディスクはおおむね順調に完了。

さっそく「十六金剛Z組」から始める。

ここまで、理屈ぬきに手の動作を中心に教えていく。

この日の予定は「十六金剛Z組」「十六金剛S組」「十六金剛返し組」の3つであったが、開始時刻が遅くなったことや、正午から来客との昼食に招待されたため、12時前に切り上げることにし、「十六金剛Z組」だけに留める。

4人ともほぼ問題なく、形が出来上がった。

最後の紐の始末「巻上げ結び」を教えて完成。

シェルター管理棟ではこの日、施設の運営に協力している人たちを迎えて、昼食会が開かれることになっており、人々が三々五々到着する。

テレビカメラが持ち込まれ、昼食前に討論が行われた。内容は主にこの施設で生まれた赤ちゃんのその後に関するもので、シェルター側の現在の対応が報告された。

参加者はスウェーデンなど、国内外から来ており、普段からこの施設に支援をしているとのことであった。

今回の組紐教育セッションについてもサンプルを見せて簡単に説明を行った。

(ここで生まれた赤ちゃんについて説明するサシさん)



討論のあとは昼食会になり、施設側で準備したカレーを一緒にいただいた。

こちらは、午後市内に出かけて、WDCの販売出店や世界遺産になっている「仏歯寺」、マーケットなどを見学する予定であったが、主宰

のチャンドラテリカさんが来客対応で4時半まで待つて欲しいとのことで、待つことにす

る。

その間、少女たちの居住区画も特別に見学させてもらえることになった。

そのときエントランスには7,8人の少女がいて、椅子にかけてテレビをみている少女たちはみなおなか大きい。14から15歳と見える。

左側の部屋に二人の赤ちゃんがベッドに寝かされていた。

一人は栄養も良く、元気に体を動かしている。もう一人は生後間もないこともあるが、小さくて、あまり栄養状態が良いとは思えない。元気なほうの赤ちゃんのベッドの脇にはその子を産んだ少女が立っていた。見学参加者の一人が赤ちゃんの名前を聞いたが、母親である少女は答えられない。名前もつけていないのではないかと思われえる。

本来、このシェルターは保護されている少女たちの自立の妨げにならぬよう、その性格については秘密扱いとなっており、施設内部への立ち入りは厳しく制限されている。

少女たちの居住区域には男性は立ち入りが許されない。

今回支援者に対して特別に見せたことについてチャンドラティラカ代表は「私たちのポリシーが変わったわけではなく、あなた方は外国人で少女たち識別に影響を与えることがないと判断したまで」と説明した。

チャンドラティラカさんを待つ間に外の学校に通っている少女たち数人が制服姿で施設に戻ってきた。彼女らはこの共同運営者であるサシさんに実に尊敬の念で接しレスペクトしている姿に感動を覚えた。地面に伏して、スリランカでの最大の敬意の表現は相手の足へのキスであるが、それを行う少女たちの行動は自発のものであって、決して形式だけのものでないことがその表情からはっきりわかる。一度社会に裏切られたこの少女たちが今一番信頼し、尊敬している人がだれであるかが、足にキスし、地面に伏している彼女らの背中を見るだけでわかるのである。

午後四時半から、チャンドラティラカさんに今回のセッションに内容やテキストの準備などについて説明した。

特に双方が興味を持ったのは、今後の材料調達であり、この施設で作っている織物の屑糸が使えるのではないかと検討することとした。

早速翌日屑糸を分けてもらい滞在中に試作することに決定。

打ち合わせのあと、ホテルまでWDCの車で送ってもらう。タクシーなどを使うことでシェルターの存在を知られたくないとの配慮も働いているようである。

次の日は午前9時から二日目のセッションを始めることとし、8時半にホテルにピックアップに来てもらうことにした。



(左から フランシス、チャンドラティラカ、サシ)

3月20日(金曜日)

午前3時半起床。昨日までのことを簡単にまとめてみる。

8時半に迎えの車が来る。 シェルターまで30分ほど。

キャンディの郊外 HARAGAMA にシェルターはある。

市内にある WDC のショップに行く。置かれている商品をざっと見て、組紐をここで販売できるか検討する判断材料に加える。

午後観光の予定はホテルそばの市場とバスセンターあたりを散歩する範囲にとどめる。

ホテルにもどり、翌日のセッション用の糸を6人分準備。そのあと、昨日もらった糸くずで組紐の試作をした。 縦糸層紅白の二色で「千鳥組」を作ってみる。

夕方食事のあと、スーパーで買い物。 香辛料、紅茶など土産用に購入。 スリランカルピーのレートはおおよそ日本円と1対1。

3月21日(土曜日)

午前4時半起床。

ホテルのフロントから8時に迎えの車が来ると連絡あり。

食事を早めに済ませてフロントで待つが、8時を過ぎても一向に来る様子がない。

9時近くなって、やっと車が来た。

この日はセッション最後の日なので、なんとかまとめて終わらなければならない。

始めは「十六千鳥組」。テキストの間違いを発見。手順を間違える少女が多い。 お世話をしてくれているフランセスさんも間違える。 テキストの記述方法に問題がある。 このほかにもテキストの編集について、日本で検討を重ねる必要があることを痛感。

計画では2パターンを教える予定なので、始めの「十六千鳥組」は途中で切り上げさせる。

二つ目の課題の前に、私が帰国したあと、自分たちだけで糸の準備から仕上げまでができるようにしなければならないことを伝える。

二つ目の課題は「江戸八つ組」。動作は比較的簡単で、速く組むことができる。

少女たちはほぼ予定通り完成。

さらに続けてやりたいと言うので、と途中でやめた「千鳥組」の続きを組む方法を教える。

12時半で修了とし、その後各人の感想を求めた。少女たちはおおむね満足したとの答えであったが、こちらは予定の半分ほどしかこなせなかったことには悔いが残った。

それ以上に、初めてスリランカで組紐のセッションを持てたことが、不満部分を埋めてあまりあるものであった。簡単な講評を終えて再来を約束。

この日、入所している少女の誕生日にあたり、近所の人たちがお祝いに集まって来ていた。

お弁当のサービスがあり、一緒にハッピーバースデイを歌う。

現在チャンドラティラカさんとシェルターの運営を共同で、になっているサシさんが、土曜日で休日にかかわらず出かけてくるというので待つ。

シャシさんはシェルターの居住環境改善を当面の目標にして、食堂の拡張をしたいと考えているが、100万ルピー（日本円で約100万円）かかる。

その資金あつめの一環として、今回の成果を事業化することについて協議を行い、試験的に3ヶ月間で300本を作り、日本で売ることを決める。

こちらはその期待にそむかぬよう、早速行動を起こさなければならない。

滞在中のホテル代が高い（1日1万円以上かかる）ことについて、アイデアを聞く。

近くに空き部屋があるので使えるとの返事。そうであれば運賃だけの負担で住む。

また、私のアシスタントがいないのがセッションの効率を悪くしているので、こちらも何とかせねばならないが、スリランカまで来ようと言う人が簡単に見つかるかどうか。

話をしている間に、セッションに参加した少女たちがお土産を持ってきてくれた。

壁掛け式のレターフォルダーとテーブルセンター。このシェルターで彼女らが作ったものだという。贈り物もらって、足にキスされると今回の訪問が無駄ではなかったとこみあげるものがあつた。彼女たちの受けた心の傷はおそらく一生消えるものではないが、何かに熱中して頼れる誰かがいればわずかな間悲しみを忘れることができるだろう。

同じ部屋でオーストラリアから来た3人が別の少女たちを相手にワークショップを行っていた。彼女らは3週間の休暇をとってここにきているという。

縁があつて知り合った彼女らとは今後何かで協力しあえるに違いない。

メールアドレスを交換して、別れを告げる。

みんなに別れを告げて、ホテルに戻る。途中、バス停が近くにあることを確認。荷物が少なければバスでくることもできそう。

## <観光>

午後四時を過ぎていたので、キャンディに来ていて見なかったとは言えないので「国立博物館」と「仏歯寺」に行く。細かく内部を見る時間がないのが残念だがとりあえずのノルマ達成。

ホテルに戻ってシャワーを浴び、夕食前にもう一本見本用の組紐「十六金剛組」を目立つ配色で作ってみる。使用するにはシェルターでもらったサリー用の糸。縦糸に比べて細いので、準備に時間がかかる。

夕食にはインド風カレーを食べる、ここに来てからの食事はすべてカレー。これまで食べたのはスリランカ風。

3月22日（日曜日）

4時半起床。

22日と23日はキャンディを離れて、いわゆる「文化三角地帯」を観光予定。

8時にスギーウェが迎えに来る。

ダンブッラの町を通り過ぎ、シギリヤの遺跡を見に行く。

ここで、一つ問題が発生した。キャンディのホテルのルームキーを持って出てしまったのである。ホテル代を支払うことにして、あきらめる。

シギリヤの宮殿は440mの高さの大きな岩の上に作られていた。

博物館を含めた入園料が3900ルピーとは高いが、世界遺産なのでやむをえまい。

若くない私にはかなりきついコースだったが、頂上まで登る。

頂上にも犬がいたのにはちょっと驚き。

とにかく暑い。持って行った水2リットルを飲んでしまう。

下へ降りて、しばらく車が戻ってくるのを待つ。車を走らせて、午後3時半アヌダーラプラに到着。

ホテルにチェックインし、シャワーを浴びて一休みしているうちにうたた寝してしまう。

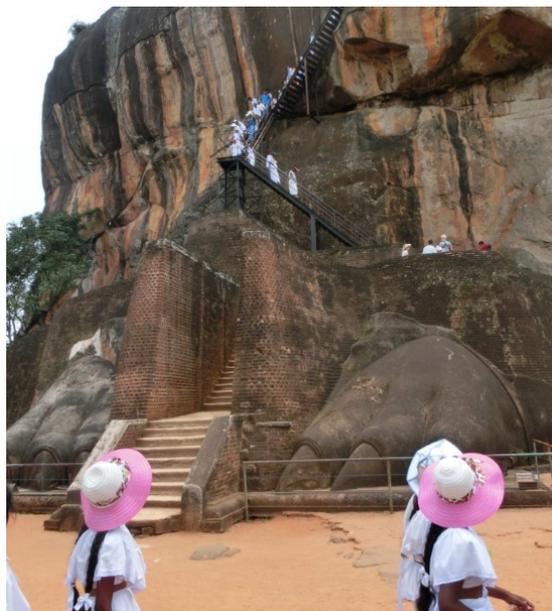
夕方5時40分にスギーウェが迎えに来た。

このあと、3つの仏塔とモーニングストーンを見に行く。

夕方のお参りに人々が続々と集まっている。

日没を見て、あたりはだんだん暗くなる。夕暮れに浮かぶ大きな仏塔は幻想的。

モーニングストーンに着いたときはほとんど真っ暗で、みやげ物の露店が店じまいをして



いる。 わずかな明かりをたよりにモーニングストーンの場所に着いて写真に収める。

3月23日（月曜日）

四時半起床。

外はまだ暗い。 かねてからスリランカでカノープスが見えるという話を聞いていたので、ホテルのスタッフを驚かさないように、そっと外へ出てみる。

庭の照明のせいで、星はたくさんは見えない。

さそり座と思える星座がほぼ天頂あたりにある。 方角がよくわからない。 家を出るときに磁石を持って行くべきかちょっと迷ったのだが、後悔することになる。

いちおうカメラを向けたが、何が写ったか定かでない。

8時にスギーウェが迎えに来る。

世界遺産の地域への入場券を買って、昨日見学していない寺院群を見学する。

どの仏塔にも入り口はない。 中はぎっしり煉瓦が詰まっている。

このアヌダーラプラにはスリランカで最も大切な寺院8つのすべてがあると運転手のスギーウェが説明する。 仏教がスリランカで最初にこの地に伝えられたことによるという。



スリランカの寺院で特徴的なのが階段の飾り。 日本のこま犬のように階段の両側に配置されているが、3点セットになっており、独特の形をしている。 今回の訪問の目的とは違うが、これは今後調べてみたいテーマである。



(階段かざり)

3月24日（火曜日）

午前5時起床。

写真を整理。 ホテルで朝食後仏歯寺を再度見学。

一巡りしたあと、コーヒーショップに行ってみる。熊本出身の日本人が経営しているとのこと。 二回へ案内され、カフェラテを注文する。



ここから仏歯寺の入り口の広場が見える。

10時過ぎにホテルの超過料金を精算して、チェックアウト。

スリーウィーラーで紅茶エステートのキャンディ事務所に行く。ここからさらにスリーウィーラーでWDCに別れの挨拶に立ち寄り、シ

ヤシさんに後のことを頼んでタクシーでコロombo空港へ向かう。

今回の運転手は新米と見えてまことに心もとない。 午後四時までに空港に着く予定が大幅に遅れたが、なんとかチェックインには間に合った。

午後8時のフライトで25日朝6時すぎ韓国インチョン国際空港着。

着陸前の機内から曙光で真っ赤な水平線が見えた。



インチョンでトランジット。福岡空港に9時半到着。ひとまず今回のスリランカ旅行は終了。

<終わって>

戻って反省することしきり。

テキストの落丁、乱丁。 手順の記入ミス・・・etc.

次回までにテキストの整備とアシスタントの養成、販路と嗜好調査などがかせない。

さらに、使用する糸の色で起きるデザインの変化規則なども体系化しておく必要がある。

組紐の用途についても、今回は携帯ストラップのみのデザインであったが、ネックレス、ブレスレット、チョーカーなど考えられるサンプルを準備しなければならない。

ビーズや結び玉などの応用も研究課題である。

3カ月後の再会を約してきたので、早速今日から準備を始めなければならない。

2015年3月25日

光武 節